

令和4年度豊橋市健康なまちづくり協議会 第1回母子保健推進部会 議事録

日時	令和4年7月28日(木) 午後1時30分から午後2時30分まで
場所	豊橋市保健所・保健センター 第1会議室
議題	議題1 豊橋市母子保健推進計画(第2次)改訂版の進捗状況について 議題2 豊橋市母子保健推進計画に関連するアンケート調査について

議事内容	
議題1 豊橋市母子保健推進計画(第2次)改訂版の進捗状況について	
委員B	<p>ライフスキルを育む性教育として、市内の高校へ健康教育を行っている。生徒は自分の将来として、妊娠などへ興味を持って聞いている印象。学校の授業で性感染症の知識の授業などがあるものの、現場の医師からの話により認識が深まると聞いている。また妊孕性についても40歳代でも妊娠できると思われているため、非常に稀であると伝えている。</p> <p>学校への健康教育に携わる医師が少ないので、増えることを願っている。</p>
委員I	<p>大学では妊娠に適した年齢についてなど、将来のライフプラン構築に関わる講座を毎年受講している。学生は女子が多く、いつまでも妊娠できると思っている学生もいる。幼児教育・保育科であることもあり、職業として子どものイメージはできているものの、自分が親になることのイメージは遠いような印象である。</p> <p>講座の中では、心配事があったときの相談先なども伝えている。相談できる場所があると認識できていると思う。</p>
委員C	<p>妊産婦歯科健康診査の受診率が上がっているとはいえ、目標まで10%近く開きがある。出生数は減少しているが今だからこそ、より丁寧に、しっかりと啓発をしていけると良いと思う。</p> <p>コロナ禍でマスク生活が長く続き、口呼吸により口腔内の衛生環境が悪化する傾向がある。ライフスタイルの変化やストレスなども歯周病に影響する。歯周病は早くケアして進行させないことが重要。妊娠期だけでなく一生涯を通じて予防を心がけていただきたい。</p>
委員E	<p>民生委員主任児童委員として、生後2か月の赤ちゃん訪問をしている。近年、外国籍の家族が多く、その場で言語対応に手間取ることがあるため、事前に情報をもたせると助かる。</p>
委員D	<p>喫煙する妊婦の割合は減っているが、妊娠する前から禁煙することが望ましい。そのためにも小学校への出前講座、健康教育は大切である。</p> <p>緊急避妊薬について、産婦人科で実際に処方することはあるのか。</p>
委員B	<p>緊急避妊薬を処方することはあり、受診時に説明して渡している。あくまでもやむを得ない状況での使用と考えている。高校の授業でも緊急避妊薬は「最後の手段」と伝えており、困ったときのために頭の片隅に入れておいてもらいたい。</p>
委員G	<p>ここ数年は新型コロナウイルス感染症により外出を控えている親子が多い。長時間在宅であればメディアに頼ることがある。母親も罪悪感を持ちながらも使用せざるを得ない状況がある。</p>

	<p>るを得ない状況。</p> <p>メディアが子どもの発育発達に及ぼす影響について、私たちがしっかり伝えていくことが必要と感じている。メディアからの刺激や情報量から、脳が情報過多になり、結果として動き回る、遊びが落ち着かないことなどが考えられる。</p>
委員 H	<p>この10年間で虐待件数は年々増加している。関係機関との連携を強めることで、虐待予防と虐待の早期発見に取り組んでいる。</p> <p>虐待をしていると思われる親の割合の減少について、10年前は「体罰はしつけ」とされる面もあったが、体罰自体が法改正で明確に「法律違反」と明記された。国などでも啓発が行われており、親御さんの意識の変化が表れてきている結果だと思われる。より一層、啓発と連携を進めていきたいと思っている。</p>
委員 F	<p>ファミリーサポートセンターの利用件数は、コロナ禍により一時期減ったものの、今は持ち直している。依頼内容は習い事の送迎が多い。子どもを預かっている時間に母がゆったりと過ごせているのであればいいと思う。利用にあたり悩みを抱える父母がいれば、こども保健課に相談している。</p>
委員 J	<p>この10年で、働く母親が増えたと感じている。以前と比べると、母親の生活体験が少ないためか、子どもの状況を察して対応することが難しいような印象がある。また色々な環境にある家族が多いので、言葉掛けなどはどこの団体も配慮していると思う。</p>
委員 A	<p>乳児の親よりも小中学生の親と接した時のほうが、子どもと一緒に成長してきていると実感する。その成長を、皆さんで支えていけるとよいと思う。</p>
議題2 豊橋市母子保健推進計画に関連するアンケート調査について	
A 委員	<p>基本的には国の指標に基づいているが、時代がどんどん移り変わっていくため、新たな指標があっても良いのではないか。例えば「子どもの視力」などはどうか。</p>
事務局 A	<p>国の指標に基づくことは、取り組みの効果を図るために重要かつ適切な指標となるがこの他にも、委員の方、それぞれの立場や視点から効果的と思われる指標や数値などがあればご意見を伺いたい。</p>
委員 J	<p>小学6年生のアンケート項目について、ストレスの解消法の回答などは年齢的に適切に回答することができるのか。</p>
事務局 B	<p>小学6年生なら回答できると思われる。</p>
委員 I	<p>メディアの利用時間について、2時間以上かどうかの2択では多くがあてはまると思うので、利用時間の選択肢を広げたほうが良いと考える。</p>
事務局 A	<p>この10年間の変化は、子育て環境や家族環境の変化など目覚ましいものがあった。今回の委員の意見を踏まえ、計画の評価、次期計画の評価だけでなく、日々の業務にも活かしていきたいと思う。今回実施するアンケートについて、意見があれば改めていただきたいと考えている。</p>